令和５年７月梅雨前線に伴う大雨

（城原川ダム、佐賀導水路、嘉瀬川ダム）

九州地方整備局　佐賀河川事務所

令和５年７月２５日

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

目　次

１．気象の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

２．降雨の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

３．水位の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

４．野越しからの越水状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

５．城原川ダムに期待される効果・・・・・・・・・・・・・・　１２

６．治水事業の効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

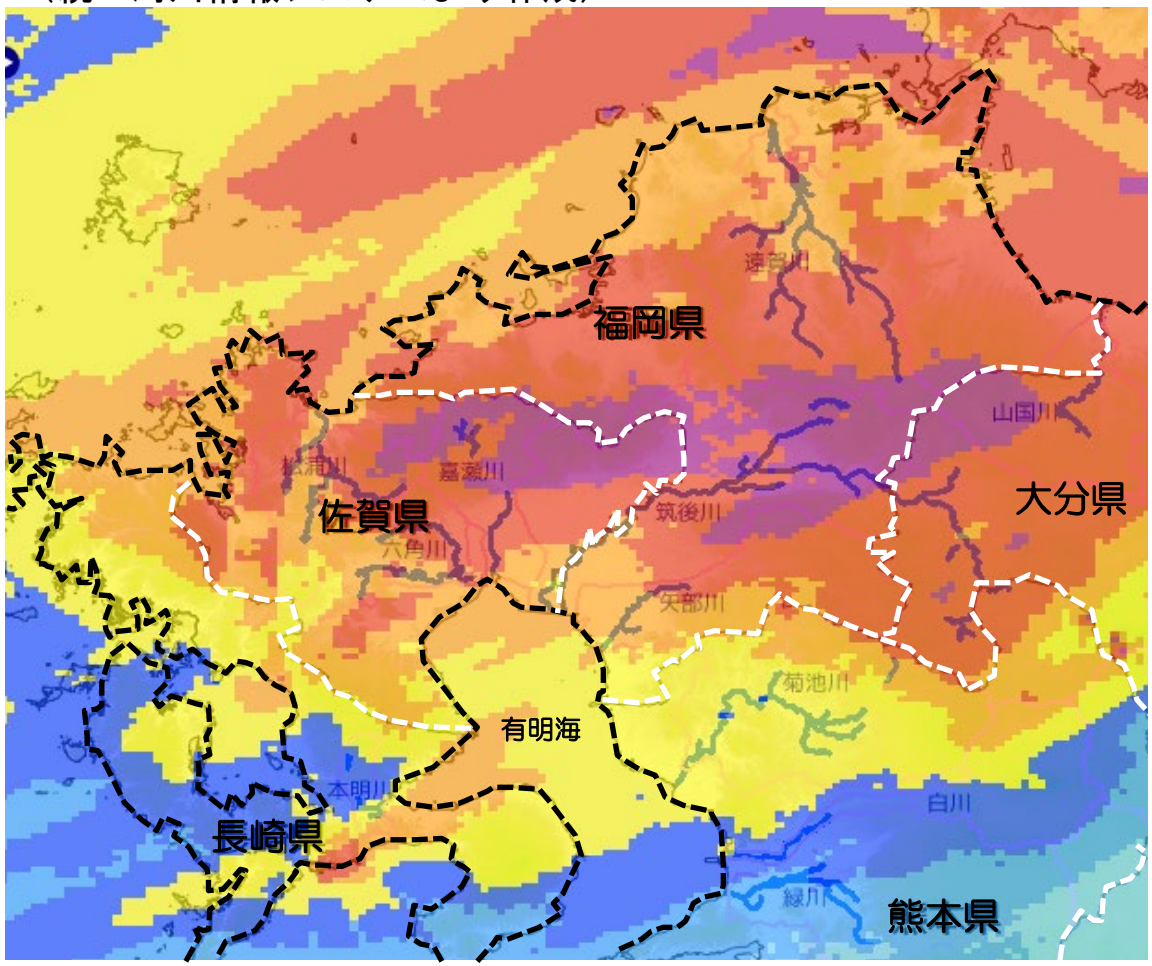
① 佐賀導水路・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

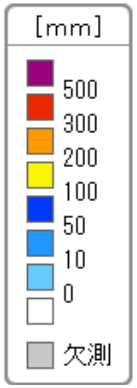
② 嘉瀬川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

1．気象の概要（九州北部地方）

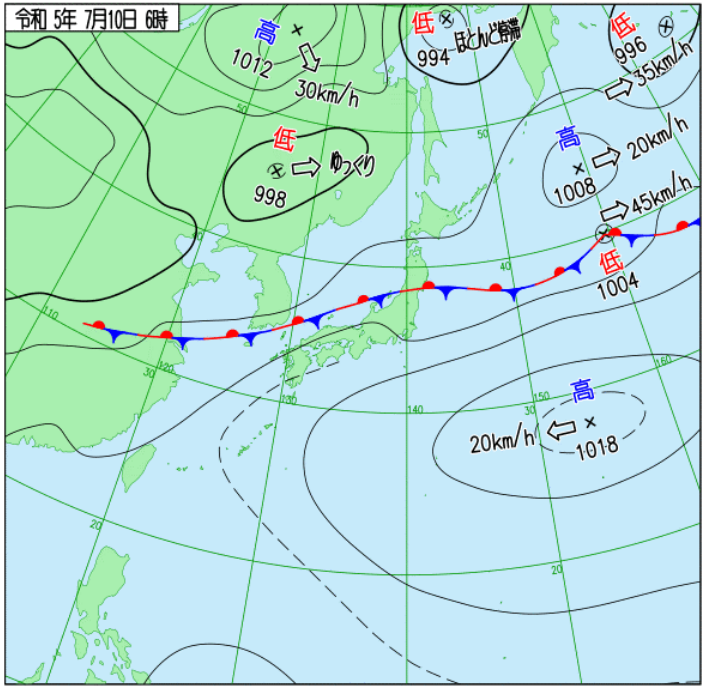
○ 7月7日（金）明け方から、梅雨前線の活発な活動により、九州北部地方の広範囲に強い雨域がかかり、**佐賀県、福岡県、大分県を中心に大雨**となりました。

7月7日　9時00分～7月10日　18時00分　累積レーダ雨量
（統一河川情報システムより作成）





天気図（7月10日6時頃、気象庁HPより）

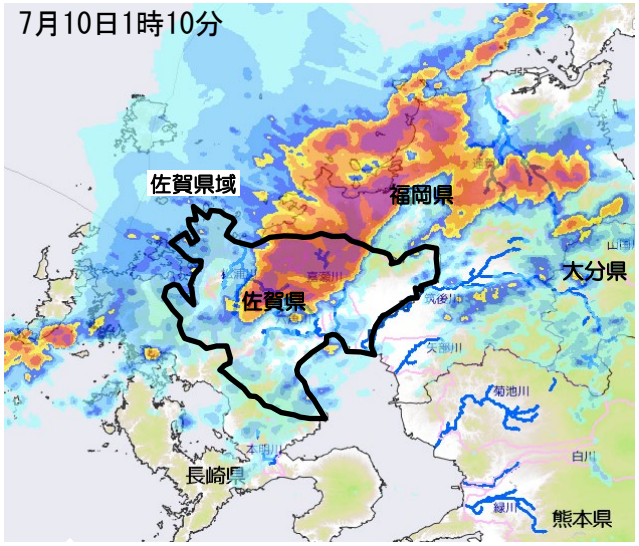


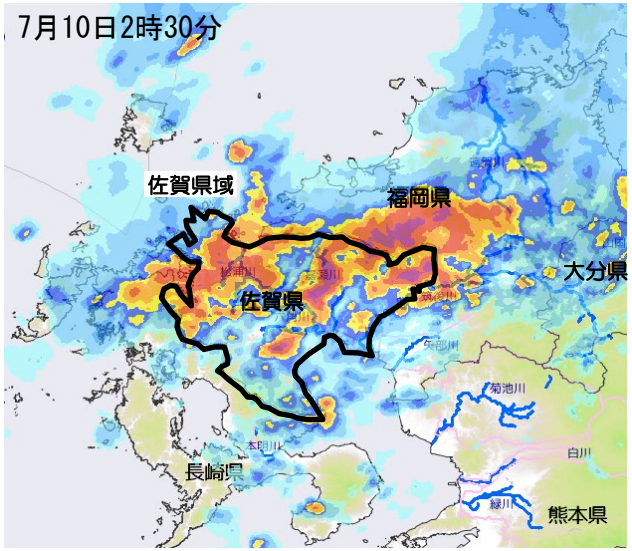
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

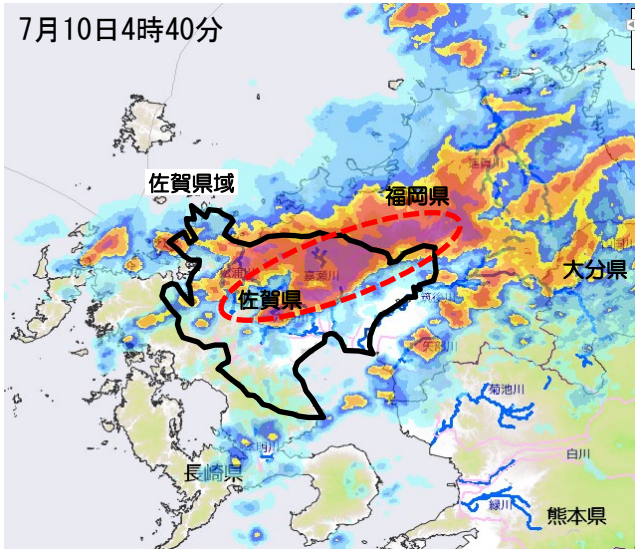
1．気象の概要（九州北部地方）

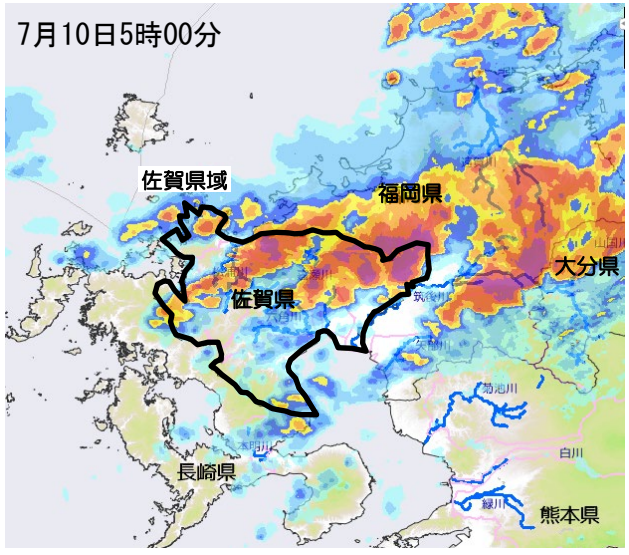
○ 7月9日（日）12時から10日（月）15時にかけ、梅雨前線が対馬海峡付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、九州地方では大気の状態が非常に不安定となりました。
○ 佐賀県・福岡県・大分県で、線状降水帯が7月10日3時9分～8時30分の間に計8回※発生しました。　※気象庁発表

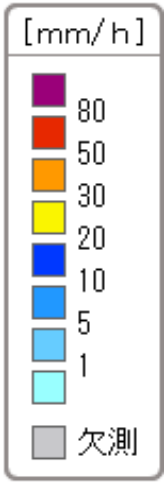
（統一河川情報システムより作成）









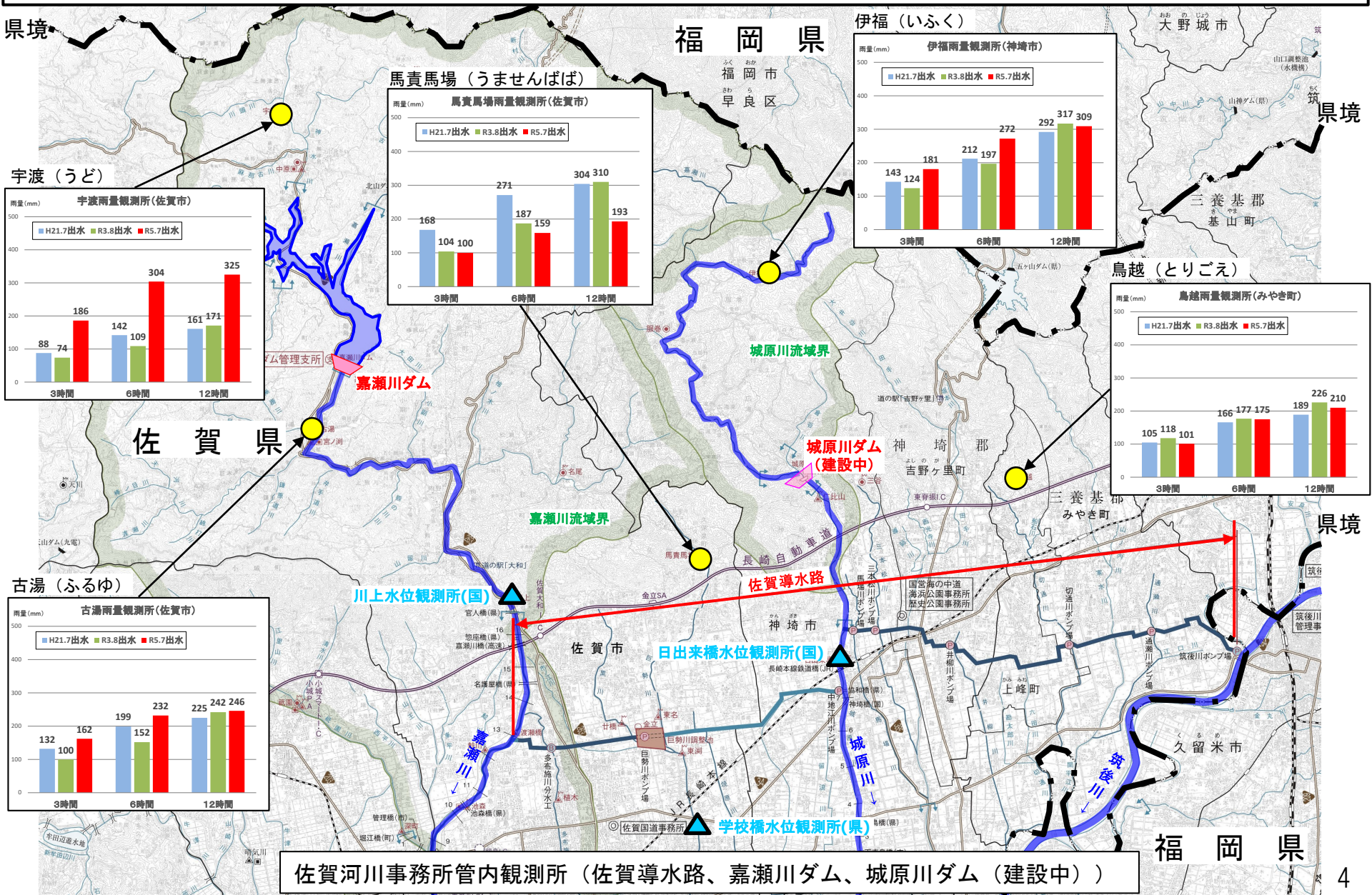


大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域

※気象庁発表時点

2. 降雨の概要（佐賀河川事務所管内）

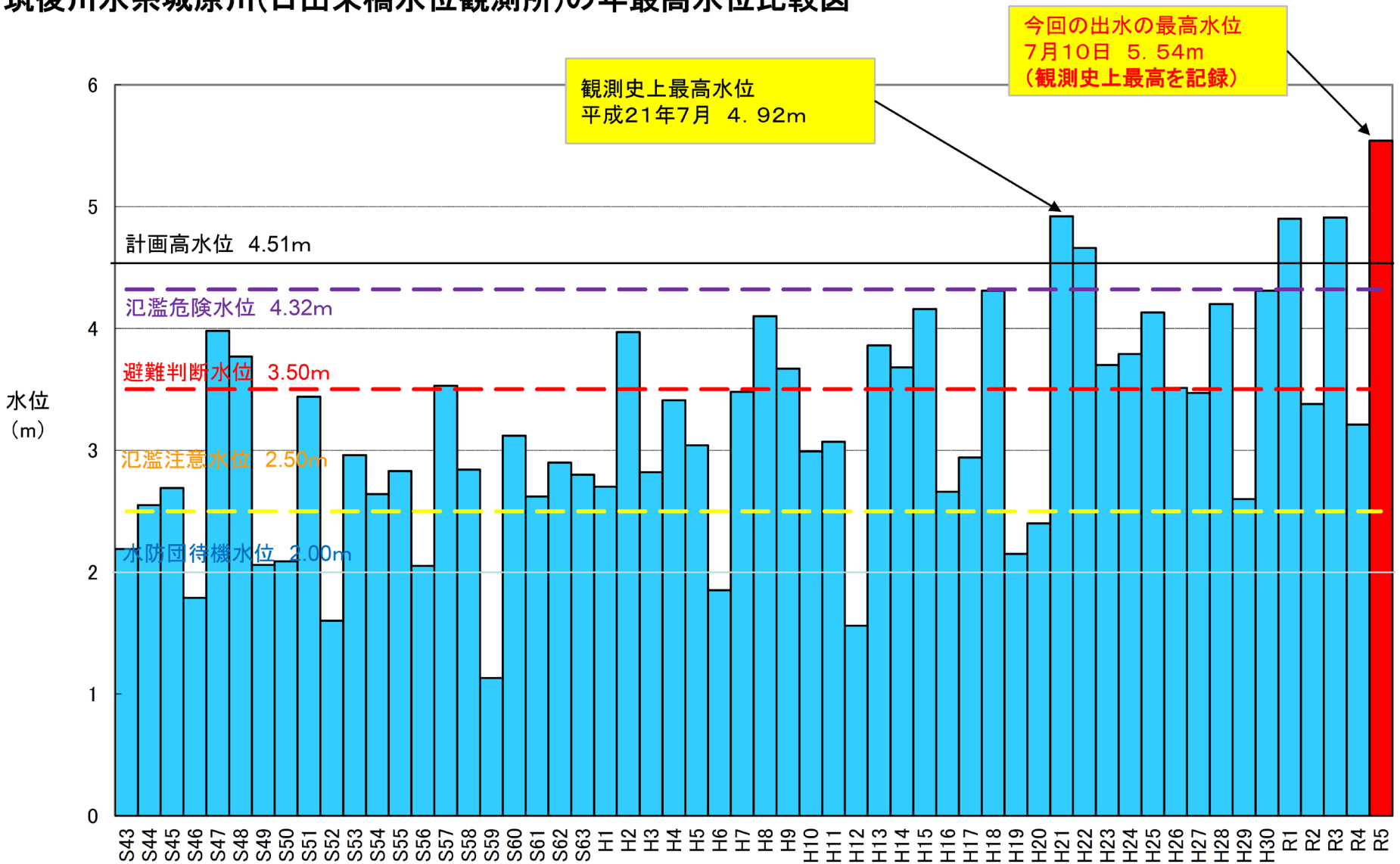
○ 佐賀河川事務所管内では、宇渡、古湯、伊福雨量観測所において、近年の主な出水を超える雨量を観測しました。



佐賀河川事務所管内観測所（佐賀導水路、嘉瀬川ダム、城原川ダム（建設中））

3．水位の概要（日出来橋水位観測所：筑後川水系城原川）　※国管理

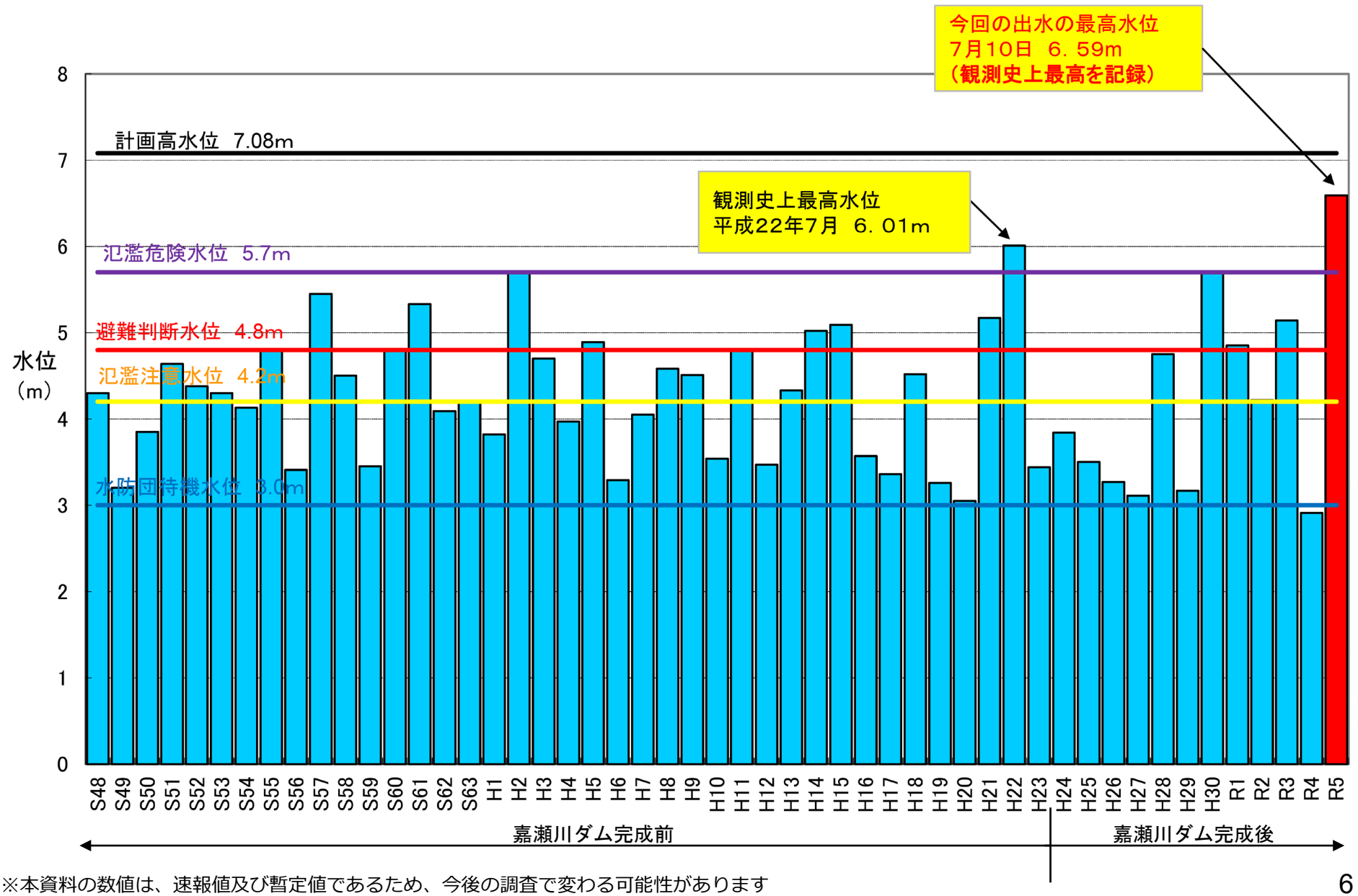
筑後川水系城原川(日出来橋水位観測所)の年最高水位比較図



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

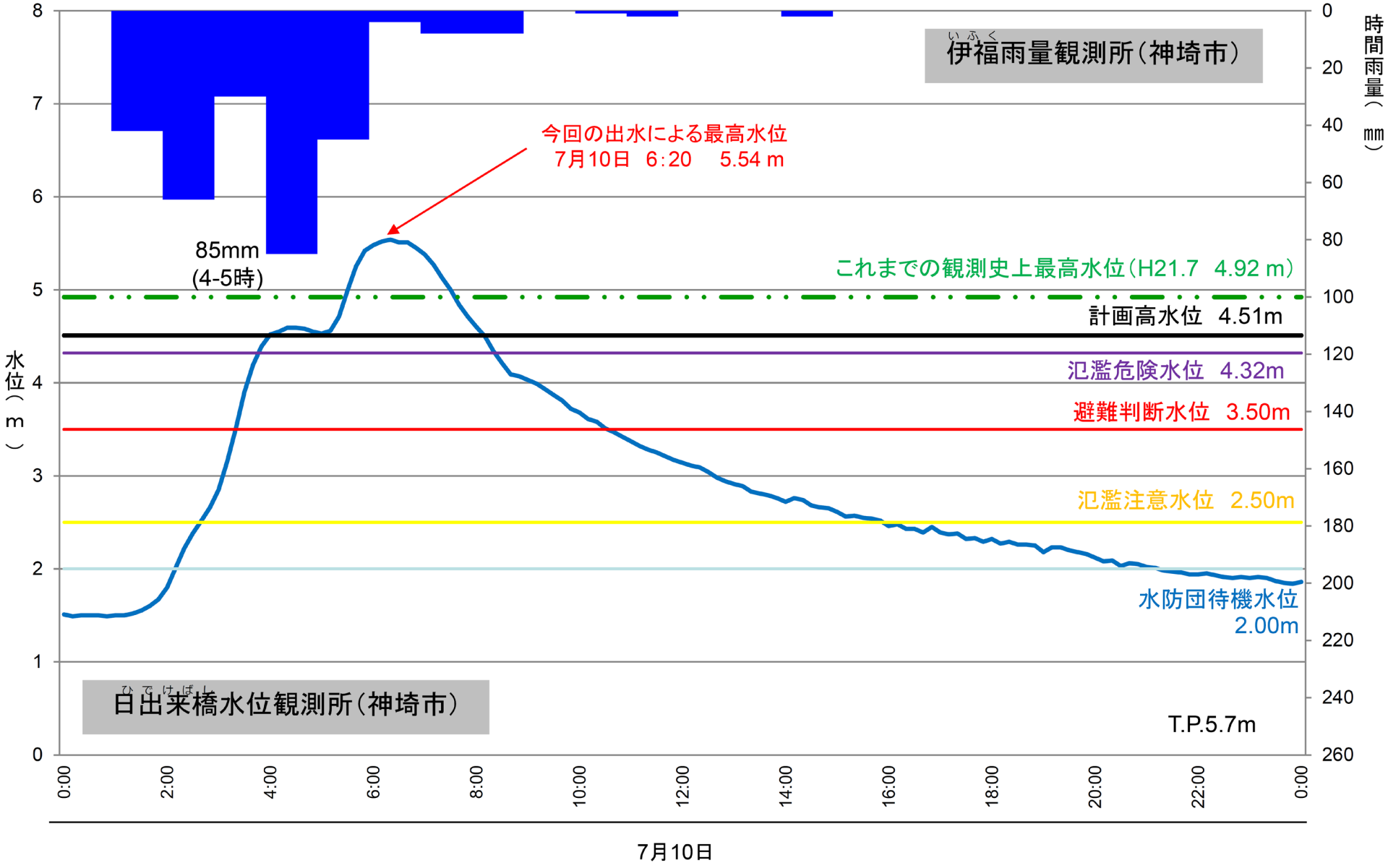
3．水位の概要（川上水位観測所：嘉瀬川水系嘉瀬川）　※国管理

嘉瀬川水系嘉瀬川(川上水位観測所)の年最高水位比較図



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

3．水位の概要（日出来橋水位観測所：筑後川水系城原川）※国管理



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

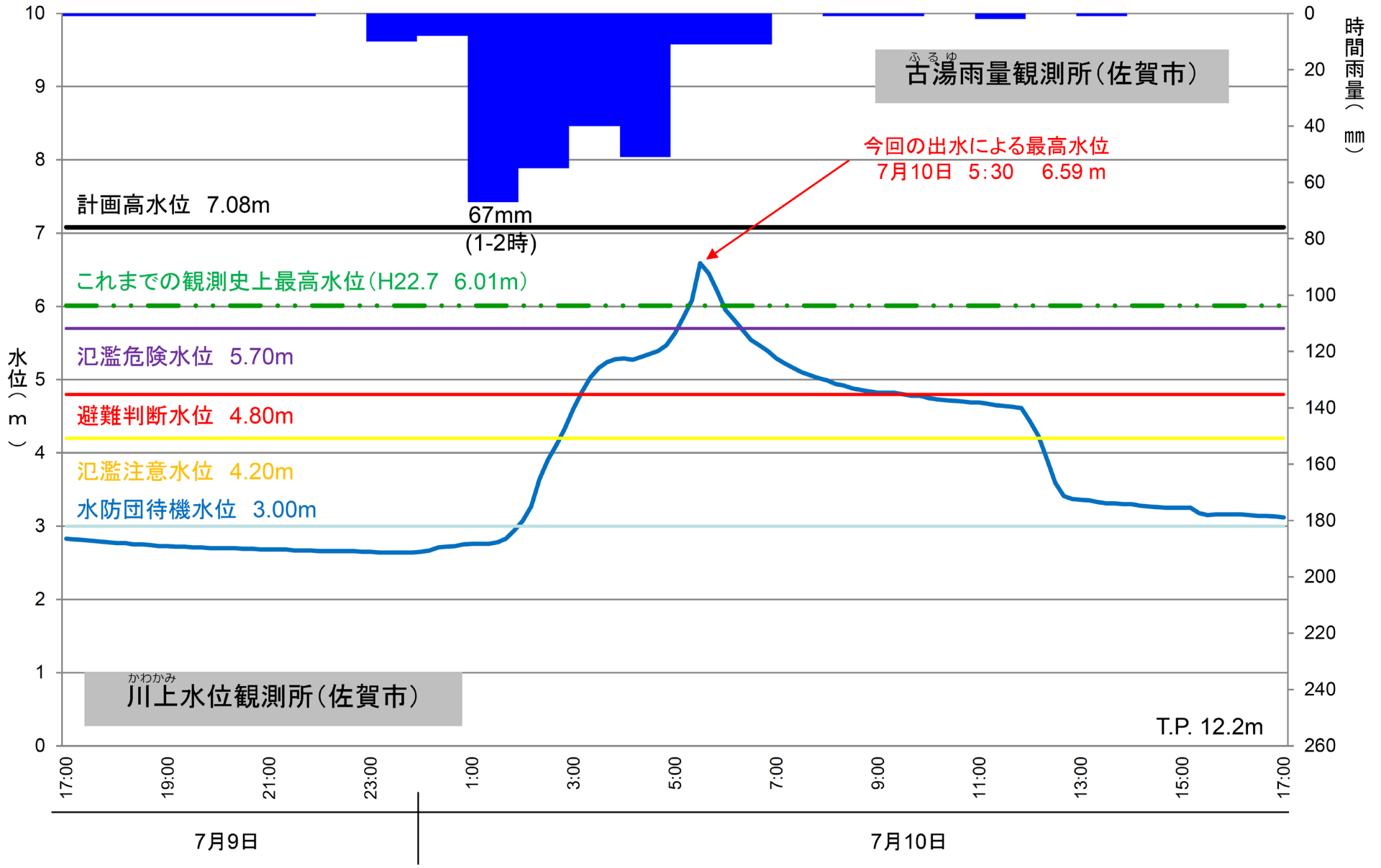
3．水位の概要（日出来橋水位観測所：筑後川水系城原川）　※国管理

○ 日出来橋水位観測所（平常時と洪水時の比較）

日出来橋地点（平常時）

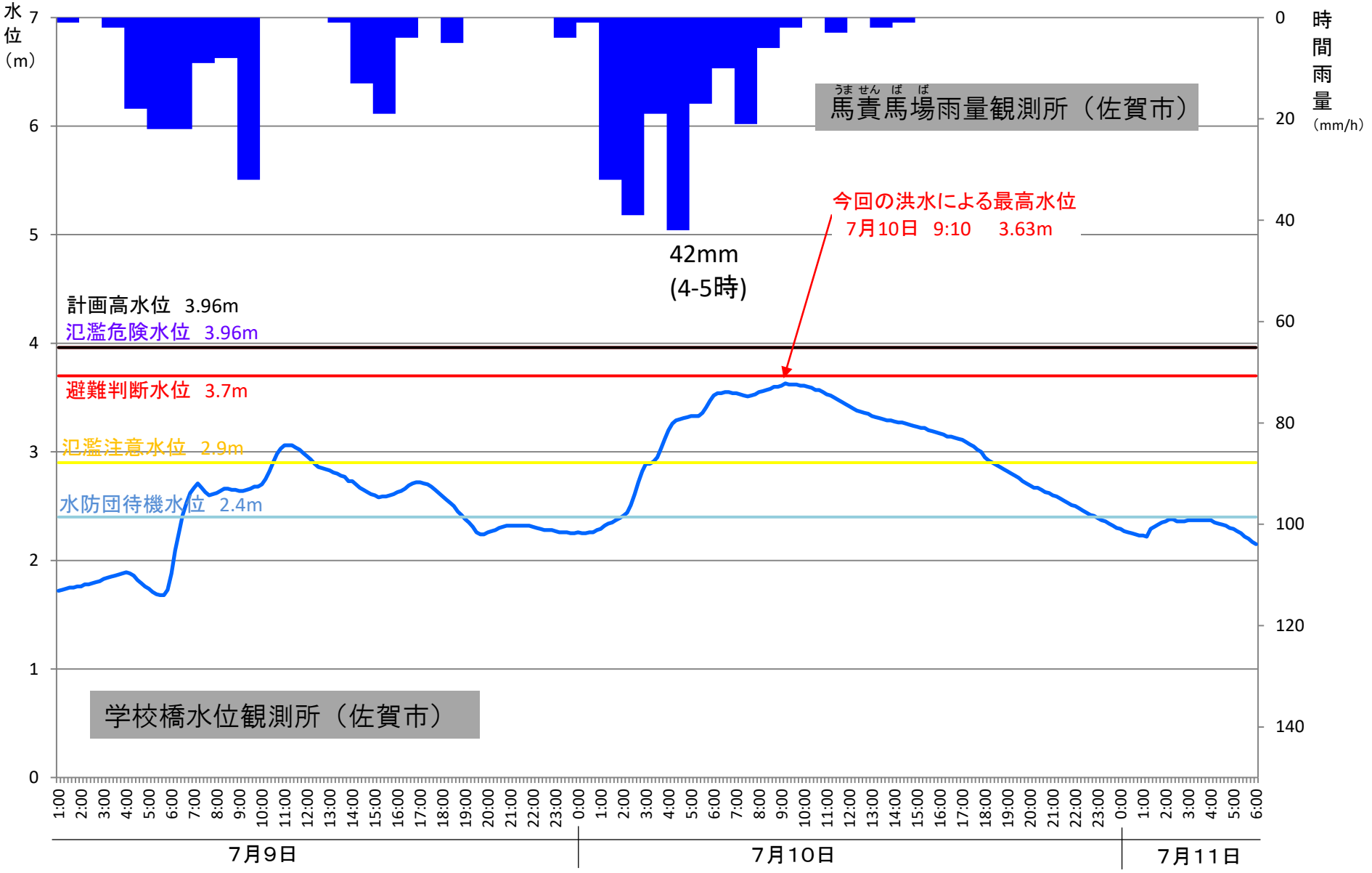
日出来橋地点（最高水位5.54m）
【7/10 6時20分時点】

3．水位の概要（川上水位観測所：嘉瀬川水系嘉瀬川）　※国管理



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

3．水位の概要（学校橋水位観測所：筑後川水系巨勢川）※県管理



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります

4．野越しからの越水状況【城原川】

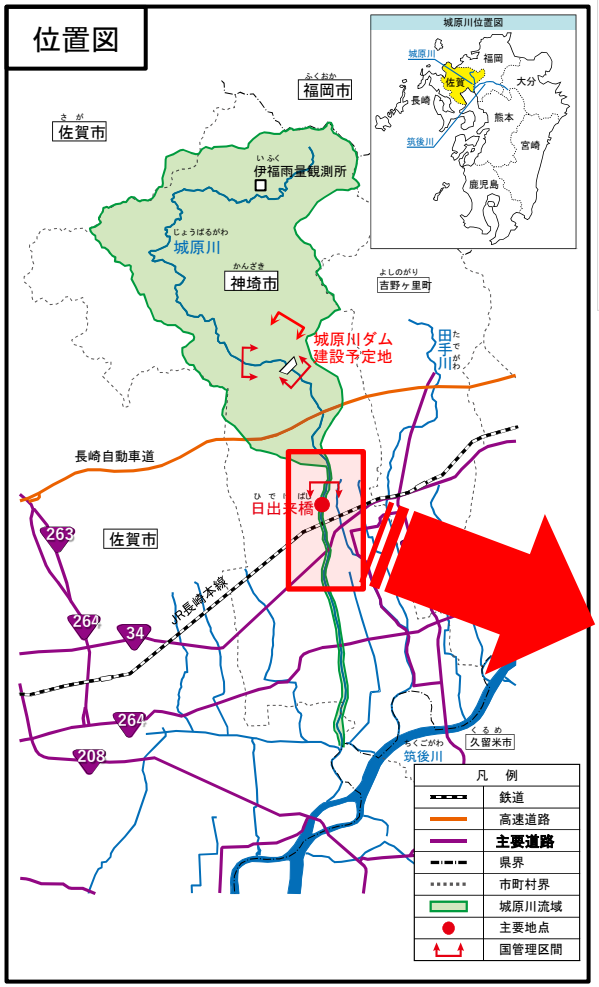
○ 城原川の日出来橋観測所より上流に位置する全ての野越し※（計９箇所）において、越水が発生。

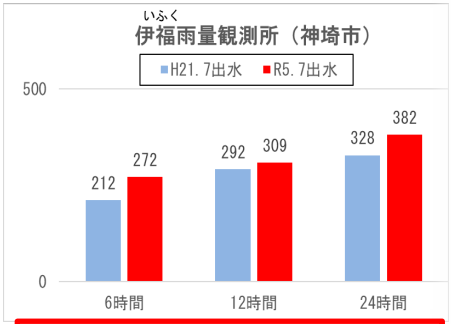
※野越しは、成富兵庫茂安が下流の町を水害から守るためなどに築いた施設といわれており、洪水が一気に下流に流れないよう上流の堤防の一部を低くして川の外に水をあふれさせるようにしたもの

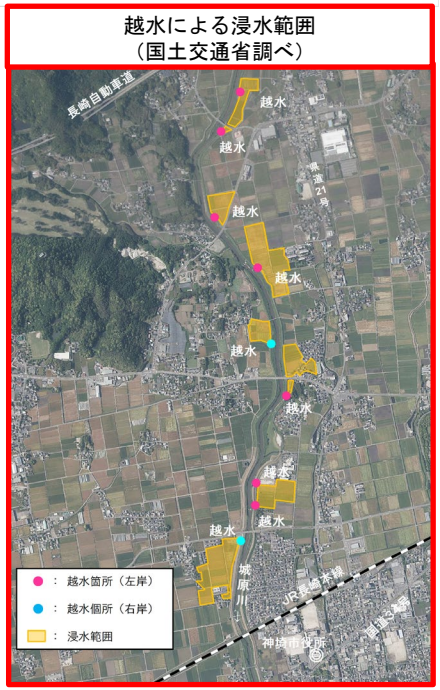
○ 野越し箇所
● 出水により越水した箇所
※全9箇所において越水を確認（速報値）

5．城原川ダムに期待される効果

○梅雨前線に伴う豪雨により、城原川ダム上流域(伊福雨量観測所)において、589mmの累加雨量を記録。（7月7日9時～10日15時）
○観測史上最高水位を記録した平成21年7月豪雨の降雨と比較すると、6時間降雨で約1.3倍の272mmの降雨を記録。（7月10日1時～7時）
○この豪雨にて、神埼市街地上流に位置する日出来橋地点で観測史上最高水位の5.54ｍを観測し、計画高水位（4.51m）を1.03m超過するとともに、9箇所の越水浸水が発生。（最高水位：7月10日6時20分）
○現在、建設を進めている城原川ダムが完成していた場合、日出来橋地点において約105cmの水位を低減し、計画高水位を下回るとともに、越水を回避していたと推測。



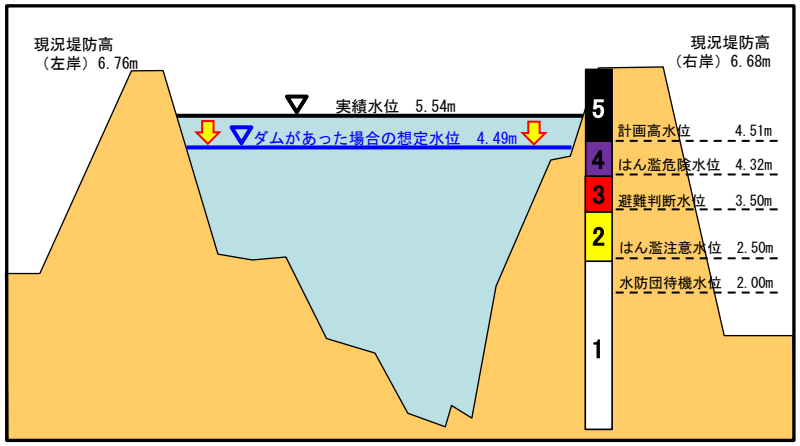




越水状況（7/10 6時頃）

日出来橋地点
（7/10　6時20分頃ピーク水位）

もし、ダムがあった場合、約105cm水位を低減



日出来橋地点における水位低減効果（イメージ）

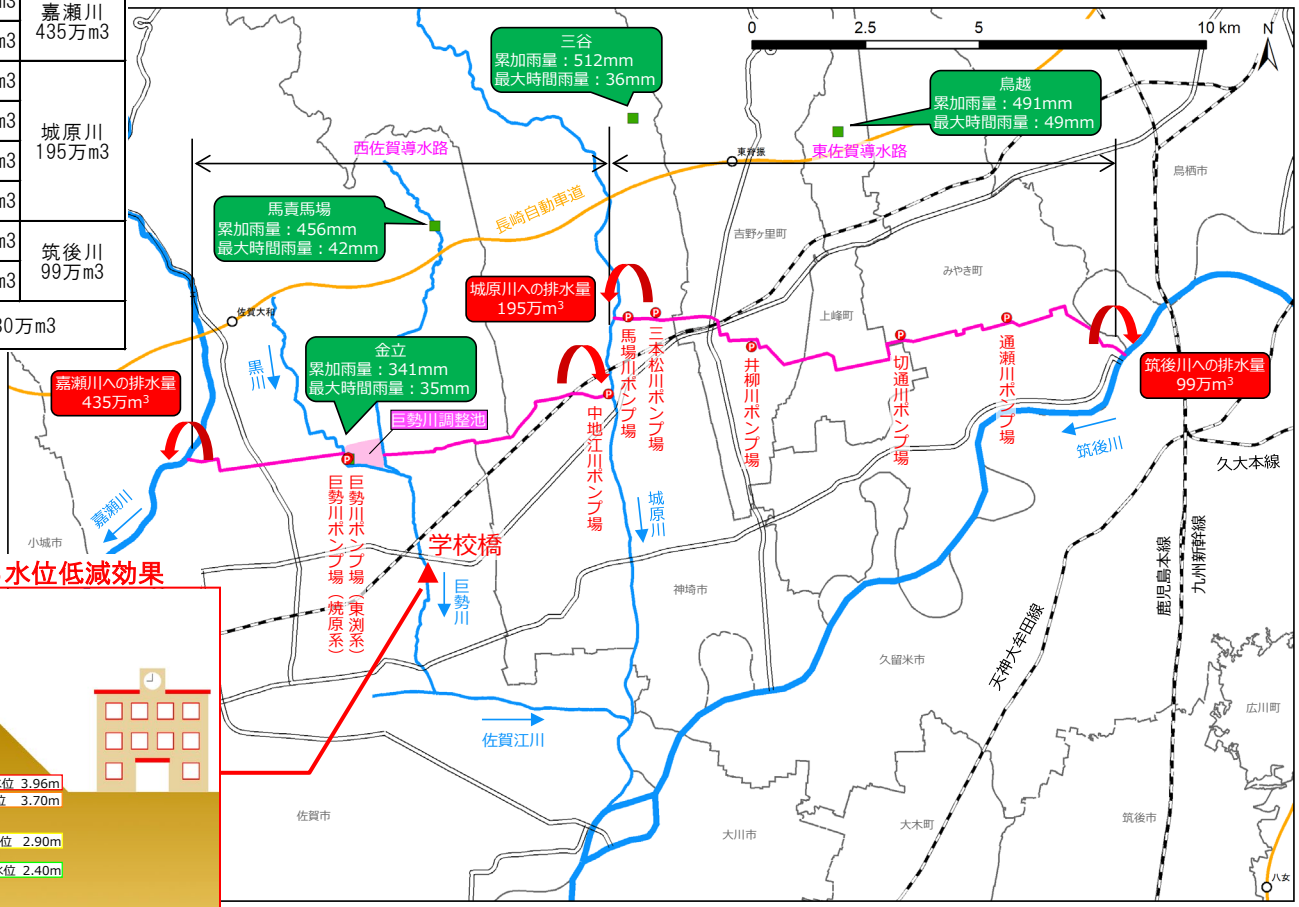
※本資料の数値は速報値であるため，今後の調査で変わる可能性があります。

6．治水事業の効果（① 佐賀導水路）

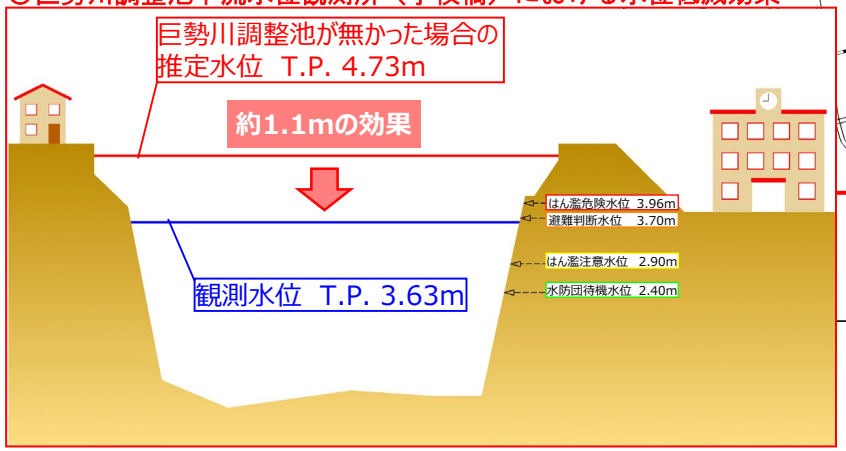
○令和5年7月9日～10日の前線による大雨において、佐賀導水路では浸水被害軽減のために計8か所のポンプ場を稼働し、合計で約730万m³の水量を筑後川、城原川、嘉瀬川の3つの大河川に排水しました。
○巨勢川調整池の洪水調節効果により、巨勢川下流の学校橋観測所の水位を推定で約1．1m低減しました。

○ポンプ稼働状況（R5. 7. 9～10）

施設名	実稼働量（最大）	稼働時間（延べ）	排水量	排水先総排水量
巨勢川ポンプ場（東渕系）	13m3/s×2台	75時間	351万m3	嘉瀬川 435万m3
巨勢川ポンプ場（焼原系）	2m3/s×2台	117時間	84万m3	
中地江川ポンプ場	4m3/s×3台	68時間	98万m3	城原川 195万m3
馬場川ポンプ場	2. 5m3/s×2台	31時間	28万m3	
三本松川ポンプ場	2. 5m3/s×2台	43時間	39万m3	
井柳川ポンプ場	2. 5m3/s×2台	34時間	31万m3	
切通川ポンプ場	5m3/s×2台	36時間	65万m3	筑後川 99万m3
通瀬川ポンプ場	2. 5m3/s×2台	38時間	34万m3	
合計			730万m3	



○巨勢川調整池下流水位観測所（学校橋）における水位低減効果

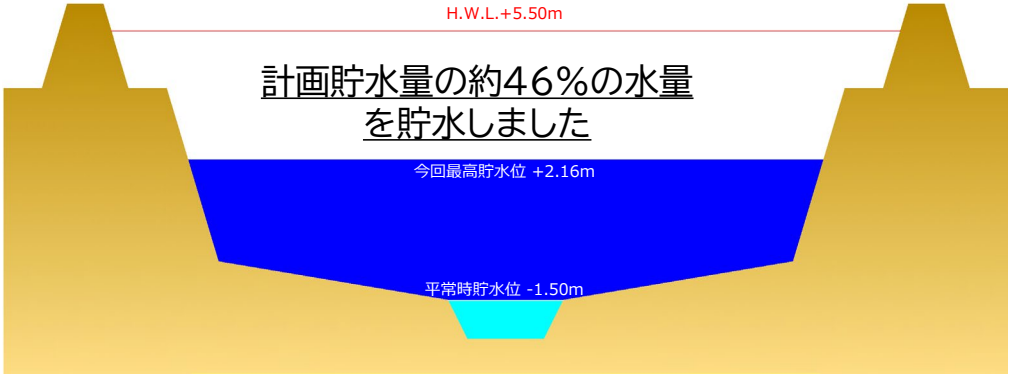


6．治水事業の効果（①佐賀導水路（巨勢川調整池））

○今回の大雨において、巨勢川調整池に貯めた最大水量は約102万m³でした。
○これは、計画貯水量（220万m³）の約46%です。

巨勢川調整池の状況

$$\frac{\text{大雨時最大貯水量}}{\text{計画貯水量}} = \frac{1{,}020{,}022\text{m}^3}{2{,}200{,}000\text{m}^3}\ (=\text{約}46\%)$$

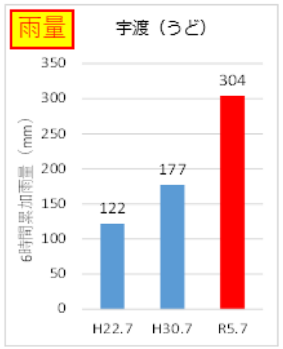


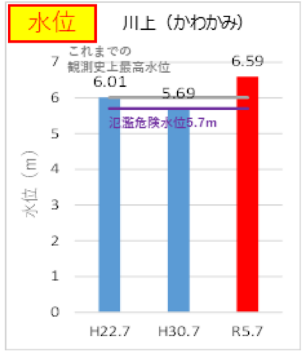
巨勢川調整池の断面図

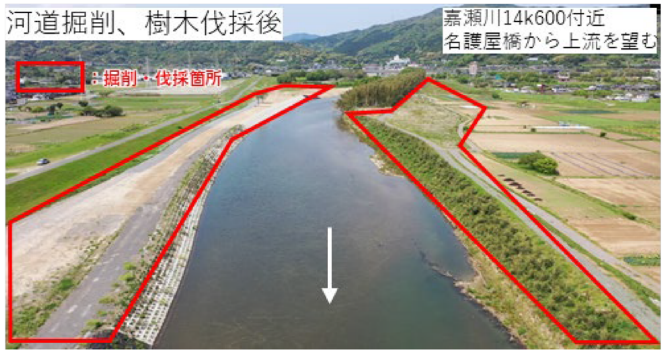
※注意：本資料は速報値であり、今後、変わることがあります。

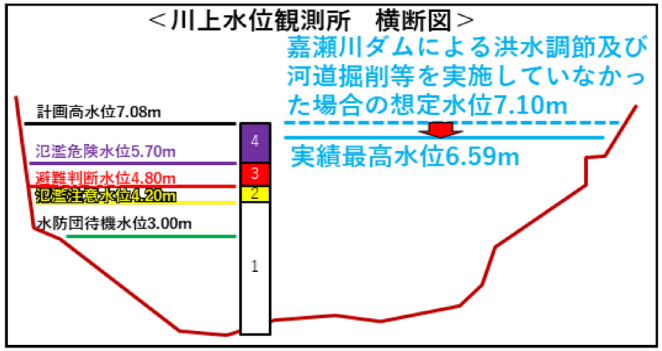
6．治水事業の効果（②嘉瀬川水系嘉瀬川）

○嘉瀬川川上水位観測所では、令和5年7月10日の出水において、観測史上最高水位を記録。
○嘉瀬川では、これまで嘉瀬川ダム建設（H24完成）とともに、5か年加速化予算等を活用し、河道掘削等を実施。
○今次出水では、嘉瀬川ダムによる洪水調節及び河道掘削等により、計画高水位超過を回避し、堤防決壊による佐賀市街部の甚大な浸水被害を未然に防止。









※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。